

はじめにお読みください

～ Arm® Development Studio / DS-5 Node-locked 版 ～

1 ツールを使用開始／保守契約更新するにあたって

この度は、弊社より Arm 社製ソフトウェアツールをご購入いただきありがとうございます。

お客様に最高の組み込みソフトウェア開発ツールを提供することが我々のゴールです。我々はこの目的を達成するために、お客様のソフトウェアエンジニアリングをより容易にするようサポートを行っております。

この「はじめにお読みください」のガイドブックは Arm® Development Studio、および旧製品の DS-5、RVDS の導入および保守契約更新後の早急な立ち上げを支援します。

ここでは、新しいソフトウェアのインストール方法とより詳細な情報やサポートが必要な際のコンタクト方法についてお知らせします。

本書では、いくつか用意されたライセンス方法の中から、より簡単で確実にライセンス取得できる方法をご紹介します。

◆ 対象製品

本書は、以下 Arm 社製品を対象とし記載しております。

- Arm Development Studio
- Arm DS-5 Development Studio
- RealView Development Suite (RVDS)

◆ 著作権

本書に記載されている情報の全部または一部、ならびに本書で紹介する製品は、著作権所有者の文書による事前の許可を得ない限り、転用・複製することを禁じます。

本書に記載されている製品は、Arm 社が提供する Arm 社製ツールを対象としており、製品の市販性または利用の適切性を含め、暗示的・明示的に関係なく一切の責任を負いません。また、Arm 社製ツールのバージョンアップに伴い、今後予告なしに本書内容を変更する場合があります。

本書は、対象製品の利用者をサポートすることだけを目的としています。

2 製品のシリアル番号

Arm 社のソフトウェアツールを使用するためには、PSN と呼ばれる製品のシリアル番号が必要となります。

PSN は、納品された **シリアル発行証明書** (図 1) あるいは **Certificate of Authenticity**(図 2)に、“シリアルナンバー:”、“**Serial Number:**” あるいは“**PSN:**”で記載されております。



図1. シリアル発行証明書

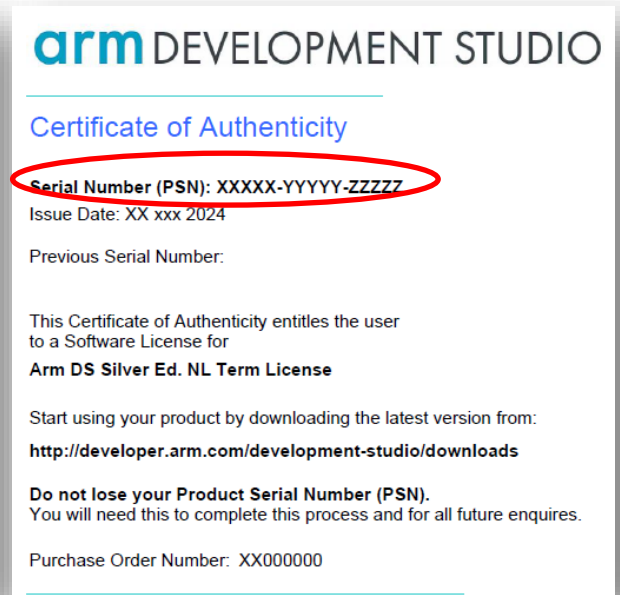


図2. Certificate of Authenticity

Perpetual (永久) ライセンスの保守契約更新を行ったお客様は、「**Arm ソフトウェア 保守に関する基本条件書**」に対象の PSN が記載されております。

保守更新時に PSN の変更がない場合に限り [ライセンスの Renewal](#) 操作が必要になります。

3 推奨するシステム構成

Arm Development Studio および DS-5 の機能を正しくご利用いただくため、必要とするコンピュータ要件は以下をご参照ください:

<DS-5>

<https://developer.arm.com/products/software-development-tools/ds-5-development-studio/resources/system-requirements>

<Arm Development Studio>

<https://developer.arm.com/docs/101469/latest/installation/hardware-and-host-platform-requirements>

注意

上記に記載されているプラットフォーム以外でのご利用は、正規のサポート対象外となり、お客様の責任の下でご利用いただく必要があることを、予めご理解・ご承知おきください。

4 ライセンスの種類

Arm Development Studio および DS-5 はライセンスの種類によってライセンシング方法が異なります。

ライセンスの種類は以下の通りです。

■ Single-User License

特定の PC でソフトウェア開発ツールを利用される場合のライセンスです。以下 2 種類のタイプがあります。

● Node-locked License

- USB ドングルキーを使用しません。
- ライセンスを登録した PC1台でのみ利用できます。

● Dongle License

- USB Dongle Key を使用してライセンス登録をいただくことで複数の PC にツールをインストールしておき、Dongle Key をさしかえる事でツールを起動する PC を選べるフレキシブルな運用が可能になります。

■ Floating License

ネットワークを介して任意のマシンでソフトウェア開発ツールを実行するためのライセンスです。ライセンスサーバの管理の下、購入したライセンス数までのユーザが同時にソフトウェア開発ツールを利用できます。

● FlexLM Floating License

- FLEXnet サーバソフトウェアをライセンスサーバ PC にインストールし、ライセンスサーバを起動しておく必要があります。
- LIC を取得する必要がありません。
- Arm Web サイトにより、ライセンスファイル(*.dat あるいは *.lic)を取得します。
- ライセンスサーバはシングルとリダントの 2 種類の構成を取る事が可能です。
- 保守期間に依存せず、ライセンスサーバ PC の変更(リホスト)が無制限に可能です。リホストを行いたい場合、Arm Web サイト経由で操作可能です。
- このタイプのライセンシングは別紙『[Flex Floating License Quick Guide for DS5 RVDS](#)』をご参照ください(本ドキュメントでは説明がありません)。

■ User-based Licensing

UBL のライセンスは、ライセンスサーバを使って運用します。

CLS(Arm のサーバをクラウド利用)と LLS(お客様にてサーバをご用意)の2つの方法があります。

- このタイプのライセンシングは弊社 FAQ の『[ライセンス発行に関して](#)』の Arm 純正ソフトウェアツール User Based Licensing をご参照ください(本ドキュメントでは説明がありません)。

5 Hostid を確認

Node-locked ライセンスは、特定の PC でソフトウェア開発ツールを利用される場合のライセンスです。Hostid を確認するためには、Arm Development Studio、DS-5 をインストールしご利用いただく PC 上で、コマンドプロンプトを開き、"**ipconfig /all**" コマンドを実行してください。表示されたネットワークカードの物理アドレス(Physical Address) の中から適切なものを選択してライセンス取得時にご指定ください。

注意

製品と共に USB ドングルキーをご購入いただいたお客様は、USB ドングルキーの Hostid へライセンスを紐づけておき、複数の PC にツールおよびライセンスファイル、またドングルキーのドライバをインストールしていただければ、それら PC 間でドングルキーを挿しかえることでツールを使用する PC を簡単に切り替える運用が可能です。

その場合、ライセンスを取得するために必要となる Hostid のご確認の際には USB ドングルキーを PC に接続してください。これにより、ドングルキーの物理アドレスが"Physical address"として表示されます。

例) USB ドングルキーを接続しない場合の例 (1 台の特定 PC でのみツールが動作可能)

Description: 3Com 10/100 Mini PCI Ethernet Adapter

Physical Address: 01-23-45-67-89-AB

⇒この場合、Hostid は 0123456789AB

例) USB ドングルキーを接続した場合の例

Description: USB 10/100 Ethernet Adapter

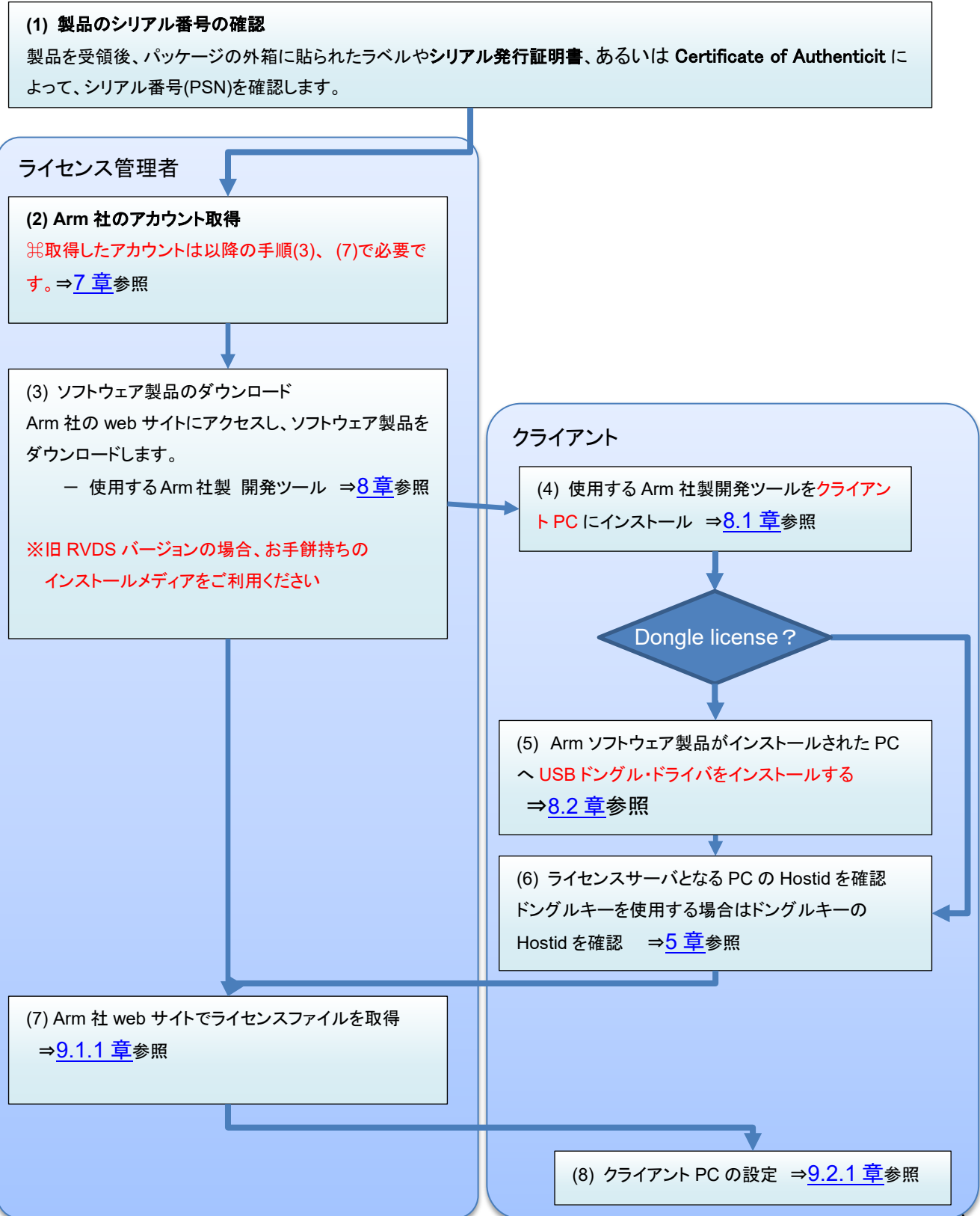
Physical Address: 00-10-60-12-34-AB

この場合、Hostid は 0010601234AB

※Arm 社から提供されるドングルキーの Hostid は" 001060"から開始される番号です。

6 ライセンスインストールまでの流れ

この章は、お客様が製品のシリアル番号を入手されてから、PC へライセンスをインストールするまでの大まかなフローを説明します。詳細な操作手順は以降の各章をご参照ください。



7 Arm 社のアカウント取得

Arm 社は Arm Development Studio および旧製品の DS-5、RVDS などのソフトウェア製品あるいは FlexNet サーバソフトウェアを Arm Web サイト上にて提供しております。

それらソフトウェアのダウンロードや FLEX 版ライセンスを取得するためには、事前に **Arm Developer サイトのアカウント**を取得し、**そのアカウントを利用してログインする必要**がございます。

アカウントの取得は以下の URL にアクセスし、右上隅にある人型のアイコンをクリックすると表示されるページで "Register" を選択することで開かれる登録ページから無償で行っていただけます：

<https://developer.arm.com/>

注意

上記アカウントをライセンス取得に使用される場合、取得したライセンスは、登録時のアカウントでのみ管理されます。

ご登録担当の方が長期不在になられる、あるいは数年ごとに担当者が変更となる場合は、担当者の方が引き継ぎを行われる際にアカウント変更を行っていただくか、事前にグループで alias のメールアドレスを作成いただき、そのアカウントで Arm Developer サイトのアカウントを取得して、ご利用いただくことをお願いしております。Arm 社は、ライセンスご登録時に将来的にお客様の部署等で管理可能なアカウントに設定されることをお勧めいたします。

アカウント登録に関する FAQ もご用意しております：

[Arm の web サイト developer.arm.com のアカウント登録について知りたい](#)

8 ソフトウェアのダウンロードとインストール

8.1 Arm ソフトウェア製品のインストール

Arm ソフトウェア製品は、その出荷物にインストール CD を含まなくなりました。

Arm ソフトウェア製品は、Arm の Product Download Hub という Web サイトで公開されます。

<https://developer.arm.com/downloads>

※ 上記サイトから パッケージをダウンロードするには、事前にログインが必要です。

⇒ 「[Arm 社のアカウント取得](#)」をご参照ください。

製品のアップデート

製品のアップデートは、Arm の Product Download Hub という Web サイトで公開されますが、各製品のダウンロードページが分かれておりますので、以下各製品のダウンロードページから最新バージョンをダウンロードしてお使いください。

※常に最新のソフトウェア製品をお客様へご提供するために、最新バージョンをダウンロードいただくことを推奨しております。

◆**Arm Development Studio** : [Arm Development Studio Downloads](#)

上記ページからご使用になるバージョンおよび対応する OS にあった製品をダウンロードし、任意のフォルダに保存後、ZIP ファイルをダブルクリックしてファイル解凍後にインストーラを起動してください。

注意: Arm Development Studio UBL Gold Version のように UBL の文字が入った製品は User Based Licensing という異なるライセンスの仕組みを持つ製品です。そのため、Node Locked ライセンスの場合は UBL の文字が含まれないリンク先の製品をダウンロードしてください。

◆**DS-5** : [DS-5 Downloads](#)

上記ページからご使用になるバージョンおよび対応する OS にあった製品をダウンロードし、任意のフォルダに保存後、ZIP ファイルをダブルクリックしてファイル解凍後にインストーラを起動してください。

◆**RVDS** : [RealView Development Suite and Arm Developer Suite](#)

上記ページからご使用になるバージョンの製品をダウンロードし、任意のフォルダに保存後、ZIP ファイルをダブルクリックしてファイル解凍後にご使用になる OS にあったインストーラを起動してください。

注意: RVDS は各バージョンの Final Release の製品パッケージ、またはサービスパックのダウンロードのみ可能です。旧バージョン (RVDSv4.0 / v3.x / v2.x) のサービスパック (SPx と表記されたもの) をダウンロードしてご利用になられる場合は、お手持ちの製品インストールメディアをインストールいただいた上、サービスパックを適用してご利用ください。

◆**Arm Compiler 6 単体** : [Arm Compiler 6 Downloads](#)

上記ページからご使用になるバージョンおよび対応する OS にあった製品をダウンロードし、任意のフォルダに保存後、ZIP ファイルをダブルクリックしてファイル解凍後にインストーラを起動してください。

注意: 機能安全版の Arm Compiler 6 をご使用になる場合は、以下からダウンロードいただけます。

[Arm Compiler for Functional Safety](#)

◆**Arm Compiler 5 単体:** [Legacy Compiler Downloads](#)

上記ページからご使用になるバージョンの製品をダウンロードし、任意のフォルダに保存後、ZIP ファイルをダブルクリックしてファイル解凍後にご使用になる OS にあったインストーラを起動してください。

注意: 機能安全版の Arm Compiler 5 も上記 [Legacy Compiler Downloads](#) ページ内、

”Arm Compilers for Functional Safety”の箇所からダウンロードいただけます。

注意

※ 上記サイトから パッケージをダウンロードするには、事前にログインが必要です。

⇒ 「[Arm 社のアカウント取得](#)」をご参照ください。

- ・ 各ツールはバージョンによって 32bit/64bit 版が提供されている場合があります。環境にあったものをご使用ください。
- ・ 機能安全版のコンパイラ等一部製品についてはダウンロード時に製品のシリアルが必要になるケースがあります。

ダウンロードをお試しいただいた際に、以下のようなエラーが発生するなどしてツールのダウンロードに失敗する場合、Arm の web サイトの更新の影響を受けている可能性があります。

Something has gone wrong we could not retrieve the data

Try again later or contact support {Err.1400}

その場合、「[よくある質問](#) [トラブルシューティング](#)」をご参照ください。

※ ソフトウェアはデフォルトでルートディレクトリへインストールされます。

Arm 社は、デフォルトのディレクトリへのインストールを推奨いたします。

製品のダウングレード

旧バージョンのツールのダウンロードについては下記をご覧ください。

- [旧バージョンの Arm ソフトウェア開発ツールの入手について](#)
- [旧バージョンの Arm Compiler の入手について](#)

8.2 USB ドングル・ドライバのインストール

Arm Development Studio /DS-5 / RVDS のライセンスを Arm 社が提供する USB ドングルキーと共にご利用になる場合、お客様のご利用環境下でその USB ドングルキーを適切に認識させるため、事前に PC へドングル・ドライバをインストールする必要があります。

◆ USB ドングルキー・タイプ

Arm 社が提供する USB ドングルキーは、出荷された時期によって以下 2 種類ございます：

◆ Type_A (現行タイプ)



◆ Type_B (旧タイプ)



◆ USB ドングル・ドライバはどこにありますか

通常、ドングル・ドライバは、USB ドングルキーに付属の CD-ROM に収録されています。

ただし、次の OS 環境用のドライバは付属 CD-ROM に含まれておりません。

以下の指示に従いドライバをダウンロードしてご利用ください。

◆ Type_A を Windows7 64-bit / Windows8 / Windows 10 で利用する場合

Windows に含まれているドライバを使用しそのまま認識しますので、ご利用 PC に USB ドングルキーを挿し込んでご利用いただけます。

- この時、PC の”プロパティ” > ”デバイスマネージャー” > ”ネットワークアダプタ”項目を展開すると、**【ASIX AX88772 USB2.0 to Fast Ethernet Adapter】**が表示されます。
- この表記が見えない場合、以下 ASIX エレクトロニクス社 Web サイトへアクセスし、

<https://www.asix.com.tw/en/support/download>

※Software & Tools→Drivers→USB Ethernet ICs→ AX88772A

OS に合った ASIX AX88772 用ドライバをダウンロードして任意のフォルダに解凍してください。

その後、デバイスマネージャーでそのフォルダを指定して再度お試しください。

◆ Type_B を Windows XP 64bit 版 / VISTA / Windows7 64-bit / Windows10 で利用する場合

弊社 FAQ「[\(DS-5/RVDS 用\) USB ドングルキードライバはどこにありますか](#)」をご参照ください：

注意

上記弊社の FAQ を経由してドライバをダウンロードすることができるのは、Arm プロダクトの保守契約を結んでいるお客様に限らせていただいております。予めご理解・ご承知おきください。

9 ライセンスファイルの発行

Node-locked ライセンスは、ライセンス管理者(Arm 社のアカウント取得者)とライセンスユーザ(クライアントマシン)で各々ライセンシング作業が必要です。

9.1 ライセンスの管理者が行う作業

以下手順に従い、ライセンスをセットアップします。

1. [ライセンスファイルを取得](#)
2. [ライセンスの Renewal](#) (保守契約更新後シリアル番号が変更されない場合にのみ行う作業)
3. [ライセンスファイルを修正](#)

9.1.1. ライセンスファイルを取得

Arm Development Studio / DS-5 / RVDS を新規にご購入いただいた場合や、RVDS から DS-5 へのアップグレードなどによって製品シリアル番号が変更となった場合には、以下の手順でライセンスを取得します。

1. 以下 ArmSoftware Licensing Portal 内ライセンスファイルの生成ページへアクセスしてください。

<https://developer.arm.com/support/licensing/generate>

※ 上記サイトへアクセスするには、事前にログインが必要です。

⇒ 「[Arm 社のアカウント取得](#)」をご参照ください。

2. Enter Serial Number に登録したい製品のシリアルナンバー([PSN](#))を入力し、[Create License] をクリックしてください。

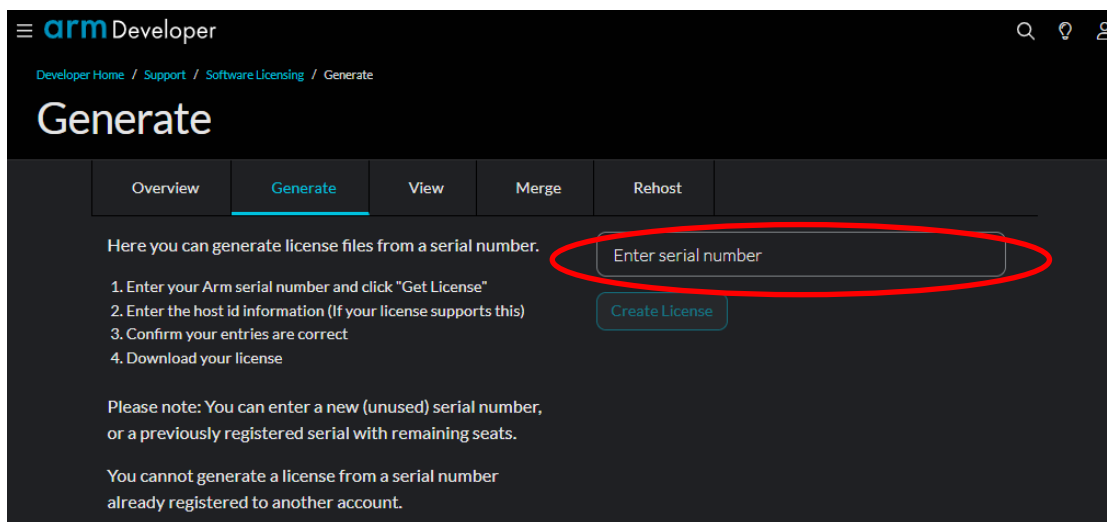


図 3. Generate License 画面

3. 左側に表示される Product 名と License Type を確認後、右側の Enter a Host id に、Hostid に有効な Hostid を入力し、[Generate] ボタンをクリックしてください。

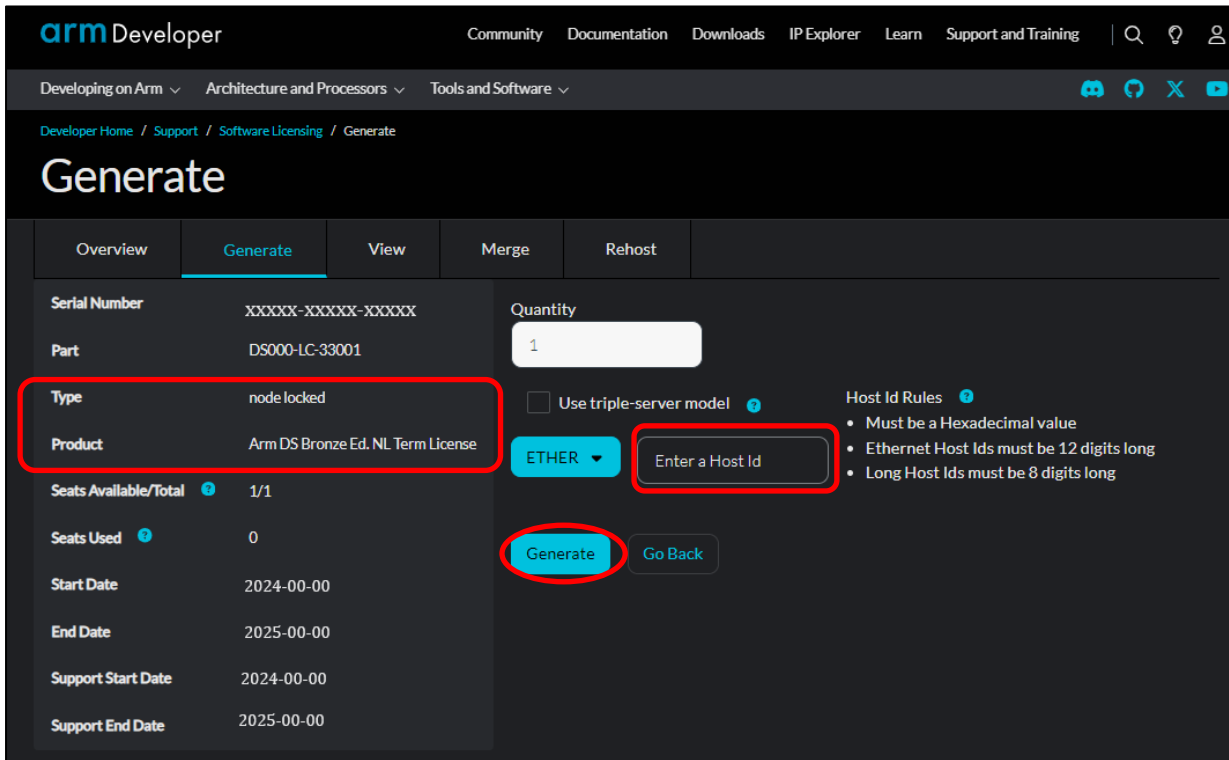


図 4. Hostid 入力

4. 入力した Hostid が表示されますので、再度入力情報を確認し[Confirm] ボタンをクリックしてライセンスを発行してください。
※ もし誤った Hostid で登録されるとリホスト手続きが必要になり、数日を要することがあります。[Confirm]ボタンをクリックする前に、再度ご確認ください。間違っていた場合は[Go Back]ボタンで Hostid の入力画面に戻ることができます。
5. [Download License] ボタンをクリックすると、ライセンスファイルがポップアップしたウィンドウに表示されます。ウィンドウ上の[Download] ボタンをクリックしてライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。

9.1.2. ライセンス Renewal(DS-5 のみ)

DS-5 のライセンスファイル内には保守終了日のデータが含まれており、そのライセンスファイルを使用した場合、保守終了日以降にリリースされた新しいバージョンの DS-5 はご利用いただけなくなります。(ライセンスファイル内に含まれる保守終了日より前にリリースされたバージョンではご利用いただけます。)

DS-5 の保守を更新いただきますと、その後ライセンスの Renewal(更新)が可能となり、新しいライセンスを取得し、使用することで、最新バージョンを含む全てのバージョンの DS-5 をご利用いただけるようになります。

お客様のアカウントにより新規ライセンス取得を行われた場合には、ライセンス Renewal もライセンス取得時のお客様アカウントを使用して実施いただけます。

Renewal 操作は、保守更新時にシリアル番号の変更が行われない場合にのみ必要となる作業です。

[2022 年 08 月以降本操作は基本的に不要となっています。](#)

1. 該当ライセンス新規取得時と同じアカウントを使用し、以下 Arm Web サイトへログインしてください：
<https://developer.arm.com/>
2. 以下の URL にアクセスして Serial Number: に Renewal したい製品のシリアルナンバーを入力し、[Get License]をクリックしてください。
<https://developer.arm.com/support/licensing/generate>
3. 表示される Product 名と Support Start /End Date を確認後、[Renew]ボタンをクリックしてください

Generate Licenses

Serial Number: XXXXX-XXXXX-XXXXX License Type: LOCKED UNCOUNTED

Part: DS5PE-LD-30000 Product: DS-5 Pro Ed NL Download License Avail / Total: 0 / 1 Used: 1

Start Date: Not Supplied End Date: Not Supplied Support Start Date: 2017/04/24 Support End Date: 2018/11/30

The following rules apply for Host Id entry

- [1] Host Id must be a Hexadecimal value
- [2] Ethernet Host Ids must be 12 digits long
- [3] Long Host Ids must be 8 digits long
- [4] Disk Serial No. Host Ids must be 8 digits long

Server Host Id Types Server Host Id

[1]	ETHERNET	0123456789AB
-----	----------	--------------

Renew

図 5. Renewal 画面

4. [VIEW] ボタンをクリックすると、ライセンスファイルが新しいウィンドウに表示されます。画面右上の [Save] ボタンをクリックしてライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。

この後、[ライセンスファイルを修正](#) の内容に従ってライセンスサーバの環境に合わせた修正を行ってください。

9.1.3. ライセンスファイルを修正

複数のライセンスとそれに対応する複数の USB ドングルキーを所有している場合、Node-locked ライセンスでもお手持ちの複数のライセンスファイルをマージし一つのファイルにまとめておくことで、自身の PC にどの USB ドングルキーを挿してもツールを動作可能にすることができます

複数ライセンスのマージ

Arm Web システム上でマージする場合

同一アカウントで登録された 同一 Hostid のライセンスは、Arm Web システム上でマージすることが可能です。ライセンスのマージ方法は以下手順に従ってください。

1. 以下 Arm_Web ライセンスのポータルサイトへアクセスしてください。
<https://developer.arm.com/support/licensing/merge>
※ 上記サイトへアクセスするには、事前にログインが必要です。
⇒ 「[Arm 社のアカウント取得](#)」をご参照ください。
 - ・ ライセンス登録後マージ作業を引き続き行う場合は、再ログイン不要です。
2. Enter a Host Id と表示されたフィールドへマージしたいライセンスサーバの Hostid を入力し、[Search] ボタンをクリックしてください。(図 7)
※ 同一 Hostid へ登録済みのライセンスが多数(10 本以上)ある場合、ライセンスがすべて表示されるよう表示行数を"10 rows"と表示されているプルダウンメニューから選択し、1 ページにすべてのライセンスが表示されるようにしてください。表示ページが異なるライセンスは、一度にマージできません。

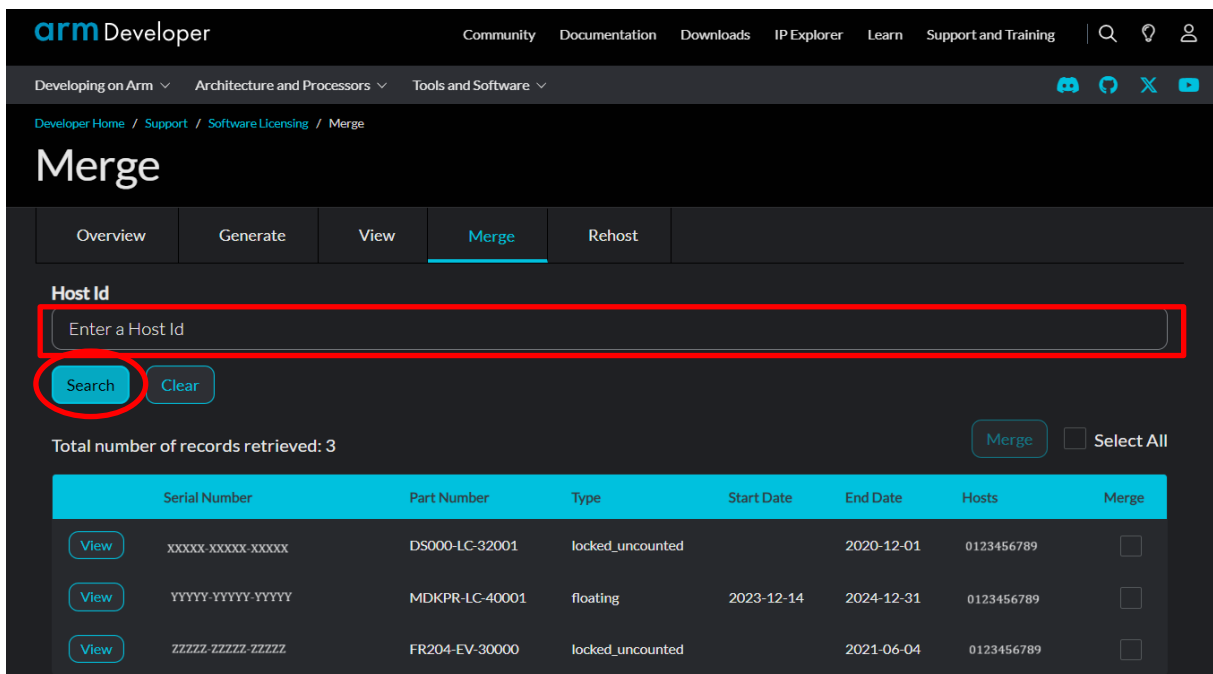
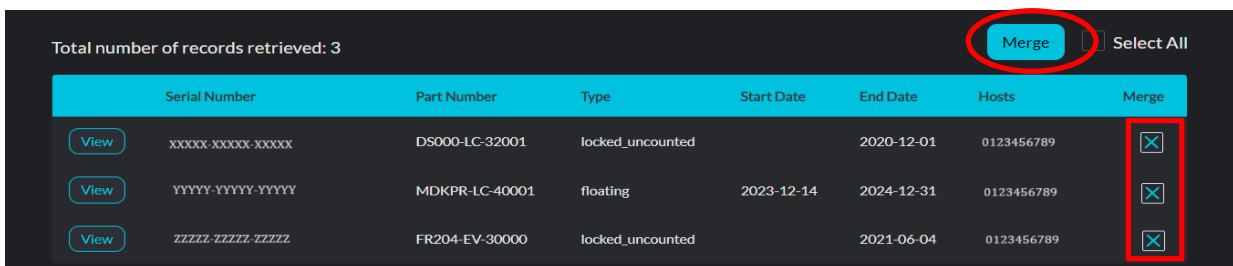


図 7. Hostid 入力

3. マージしたいライセンスのチェックボックスにチェックし、[Merge]ボタンをクリックします。（図 8）



Total number of records retrieved: 3

	Serial Number	Part Number	Type	Start Date	End Date	Hosts	Merge
View	XXXXX-XXXXX-XXXXX	DS000-LC-32001	locked_uncounted		2020-12-01	0123456789	<input checked="" type="checkbox"/>
View	YYYYY-YYYYY-YYYYY	MDKPR-LC-40001	floating	2023-12-14	2024-12-31	0123456789	<input checked="" type="checkbox"/>
View	ZZZZZ-ZZZZZ-ZZZZZ	FR204-EV-30000	locked_uncounted		2021-06-04	0123456789	<input checked="" type="checkbox"/>

図 8. マージしたいライセンスをチェック

4. Merged License Contents ウィンドウが表示されるので[Download]ボタンをクリックし、ライセンスファイルを任意のフォルダへ保存してください。

手動でマージする場合

以下の場合、Arm Web システムでライセンスのマージを行うことができませんので、手動で行います。

- ・ ライセンス登録時のアカウントが異なる場合
- ・ Arm Web システム上で、マージしたいライセンスが検出されない場合

➤ 上記の場合以下 FAQ を参照し、手動でライセンスをマージしてください。

- ・ [フローティングライセンスのマージ方法について](#)

※上記 FAQ はフローティングライセンスについて記述しておりますが、テキストエディタを使用し Node-locked ライセンスの場合でも複数のライセンス情報を単純にアペンドすることでライセンスをマージすることができます。

9.2. ライセンスユーザが行う作業

9.2.1. クライアント PC の設定

Arm Webサイト上でライセンスファイルを生成し任意のフォルダへ保存したら、続いて、ホストPC上で保存したライセンスファイルを参照するための設定を行います。

ライセンスファイルを参照する方法(ライセンスのインストール)は次のいずれか 1 つの方法によって、設定可能です:

- ◆ [ARM Development Studio License Manager を使用したライセンスのインストール.](#)
- ◆ [DS-5 ARM License Manager を使用したライセンスのインストール.](#)
- ◆ [RVDS ARM License Manager を使用したライセンスのインストール.](#)
 - ・ 「ARM License Manager」は、グラフィカルなツールです。容易に操作することができ、ライセンス環境の設定に役立ちます。

- ◆ [手動によるライセンスのインストール \(Windows のみ\)](#)
- ◆ [手動によるライセンスのインストール \(Linux のみ\)](#)
 - ・ 手動でライセンスのインストールを行うことで、make を利用したビルドやコマンドプロンプトを使用したビルド時に、毎度ライセンスを指定する必要がありません。
 - ・ また、環境変数で指定した内容は自動的に Eclipse 上の「ARM License Manager」に追加されますので、複数の異なるバージョンの Arm ソフトウェアツールをホスト PC へインストールしている場合に、ライセンスインストールをバージョン毎に必要としません。
 - ・ ライセンスファイルの場所は、ライセンスファイルのフルパスで指定することも、そのライセンスファイルを格納するディレクトリのフルパスで指定することもできます。ただし、ディレクトリパスのみを指定する場合、ライセンスファイルは *.lic ファイル(例えば license.lic)である必要があります。

注意

- ・ システム環境変数を設定するには管理者特権が必要です。
 - ・ ARMLMD_LICENSE_FILE の長さは 260 文字以下にする必要があります。
-

◆補足事項:

以降の項目では、ライセンスの参照先に関する設定についてのみ記載しています。

Arm DS や DS-5 のライセンスを使用して、makefile やバッチファイル経由でコマンドラインからコンパイラを使用する場合、追加の環境変数の設定が必要になる事があります。

詳細については、Arm の web サイトにある以下の情報を参照してください。

- ・ [Product and toolkit configuration for FlexNet Publisher \(FNP\) licenses](https://developer.arm.com/documentation/ka004977/latest/)

ARM Development Studio License Manager を使用したライセンスのインストール

Arm Development Studio の IDE 初回起動時、以下の 3.の[製品セットアップ] のダイアログボックスが表示されることがあります。その場合、使用する製品の選択を要求されますので、以降の手順に従ってライセンスの設定を行ってください。

一度ライセンスを登録したことのある環境でライセンスファイルの更新などによって再登録を行う場合は 1 の手順から操作を行ってください。

【手順】

1. Windows のスタートメニューから[Arm Development Studio IDE 20xx.0]を起動し、[Arm Development Studio IDE]メニューで[Help]-> [ARM License Manager]を選択し、[Preferences]ダイアログボックスを表示します。
2. [Configure...]と表示されたアイコンをクリックして、[製品セットアップ]ダイアログボックスを表示します。

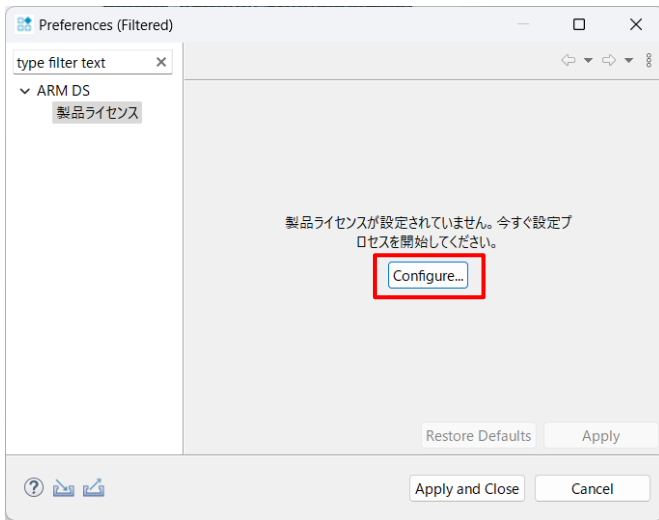


図 9-1-1. [Preference]ダイアログボックス

※古いバージョンの場合は、[加算]と表示されたアイコンをクリックして、[製品セットアップ]ダイアログボックスを表示します。

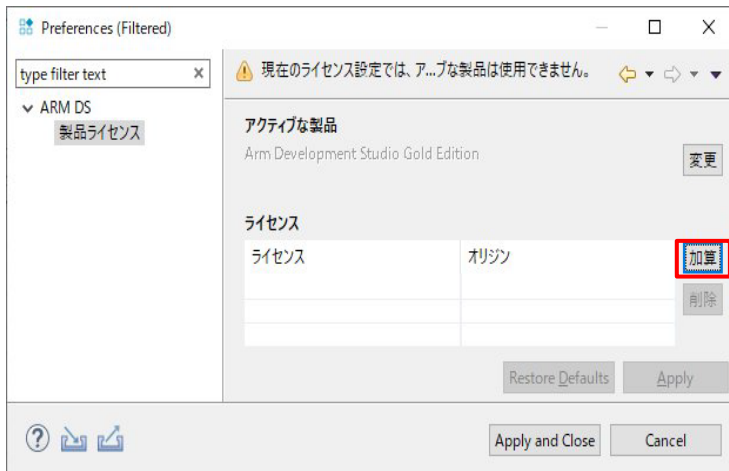


図 9-1-2. [Preference]ダイアログボックス (旧バージョン)

3. [製品セットアップ]ダイアログボックスで[Add FlexNet product license]を選択し、ウィンドウ下部にある[Next >]をクリックします。



図 9-1-3. [製品セットアップ]ダイアログボックス

※古いバージョンの場合は、[製品セットアップ]ダイアログボックスで[製品ライセンスの追加]を選択し、ウィンドウ下部の[Next >]をクリックします。

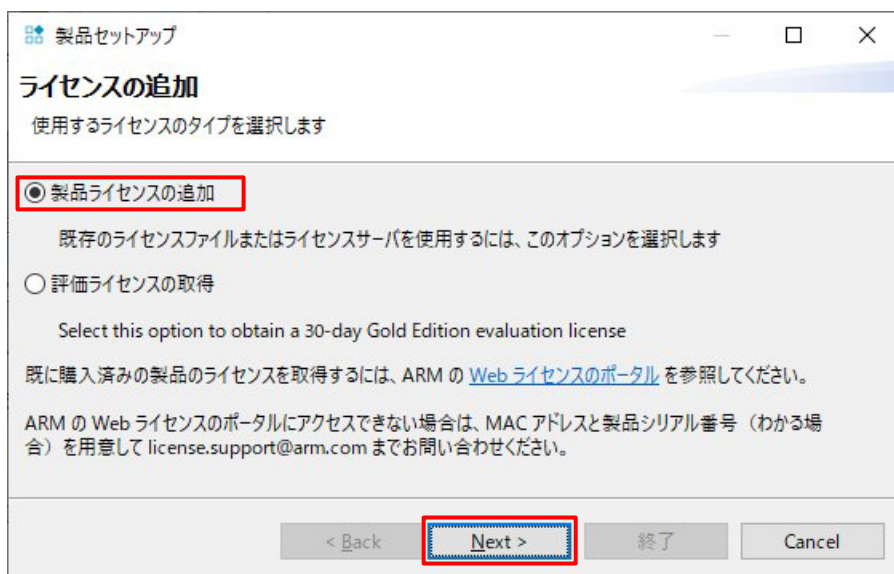


図 9-1-4. [製品セットアップ]ダイアログボックス(旧バージョン)

4. [既存のライセンス情報の入力]ダイアログボックスが表示されます。
[ライセンスファイル]を選択して右側にある[参照...] アイコンをクリックし、保存したライセンスファイルを選択します。

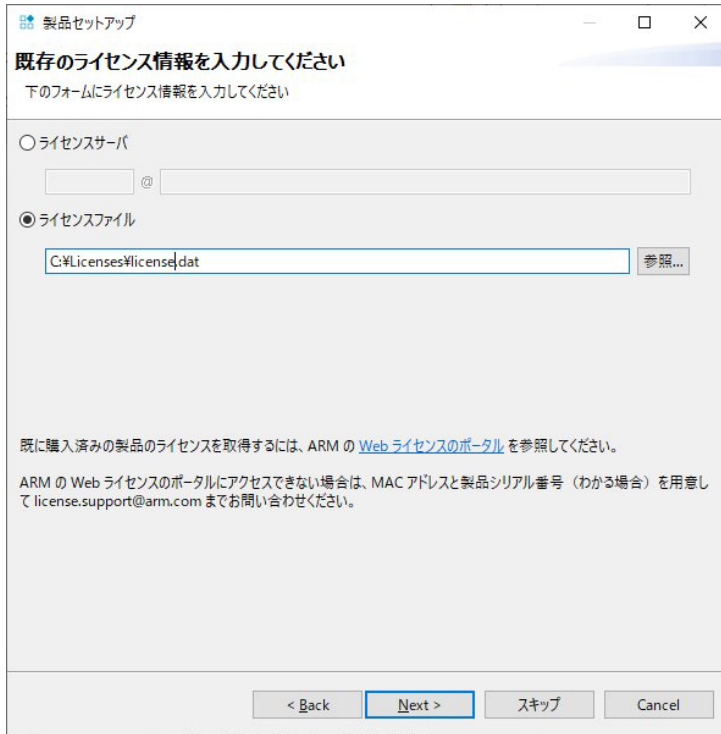


図 9-1-4. [ライセンス情報の入力]の例

5. 正しくライセンスが登録されると、[設定]ダイアログボックスにライセンスに応じて、アクティブな製品 (エディション)の情報が表示されます。
設定したライセンスの情報は以下のファイルに保存されます。

C:\%Users%\ユーザー名\AppData\Roaming\arm\ds\licenses\license.lic



図 9-1-5. [アクティブな製品]表示例

6. **[OK]**をクリックして、設定を完了します。

複数製品の情報をマージされたライセンスファイル等、複数のエディションの情報が含まれるライセンスファイルを参照している場合、**[設定]ダイアログボックス**右上にある**[変更]ボタン**から、そのクライアント PC で使用するエディションを切り替えることもできます。

DS-5 ARM License Manager を使用したライセンスのインストール

【手順】

1. メニューから Eclipse for DS-5 を起動し、[Eclipse for DS-5]メニューで[ヘルプ]-> [ARM License Manager]を選択し、[ARM License Manager]ダイアログボックスを表示します。
2. [Add License...(ライセンスの追加)]を選択して、[Add License]ダイアログボックスを表示します。
3. [Select License Type]ページで、[User a license file, license server, serial number, or activation code]を選択します。次に、ウィンドウ下部の[Next >]をクリックします。

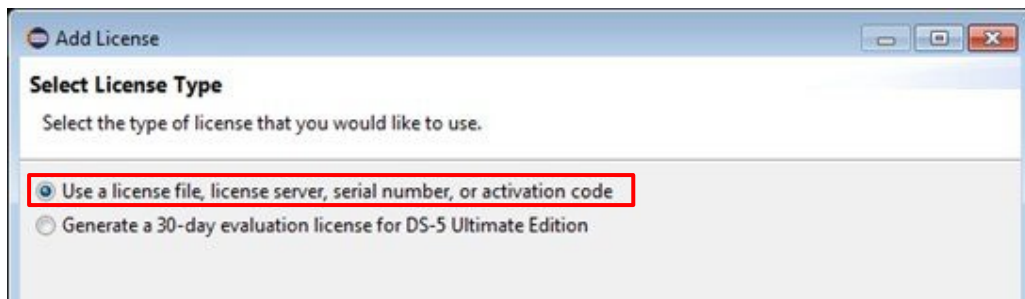


図 9-2-1. [Add License]ダイアログボックス

4. [Obtain a new license]ページで[Use an existing license file or license server address]を選択し、[Next >]をクリックします。
すると、[Enter existing license details (既存ライセンスの詳細を入力)]ウィンドウが、次の図のように表示されます。

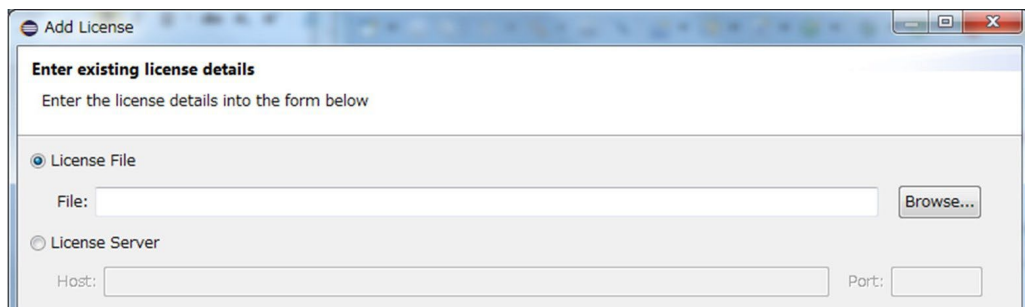


図 9-2-2. Enter existing license details

5. [License File]を選択して、前章(6章)で保存済みのライセンスファイルをパス指定し、[Finish]をクリックします。
6. [ARM License Manager]ダイアログボックスの一覧に新しいライセンスが追加されたことを確認します。
7. [Select the toolkit that you intend to use (使用するツールキットを選択):] 欄でライセンスに適したツールキットを選択します。

RVDS ARM License Manager を使用したライセンスのインストール

【手順】

1. メニューから ARM License Wizard を起動し、[次へ >]をクリックします。
2. [Action Selection]ページで[Install license]を選択し、[次へ >]をクリックします。
3. [次へ >]をクリックします。
4. [Install license]ページで前章(6章)で保存済みのライセンスファイルをパス指定し[開く]をクリックした後、[Add]をクリックします。すると、ライセンスファイルパスが下段のリストに表示されます。
[次へ >]をクリックします。

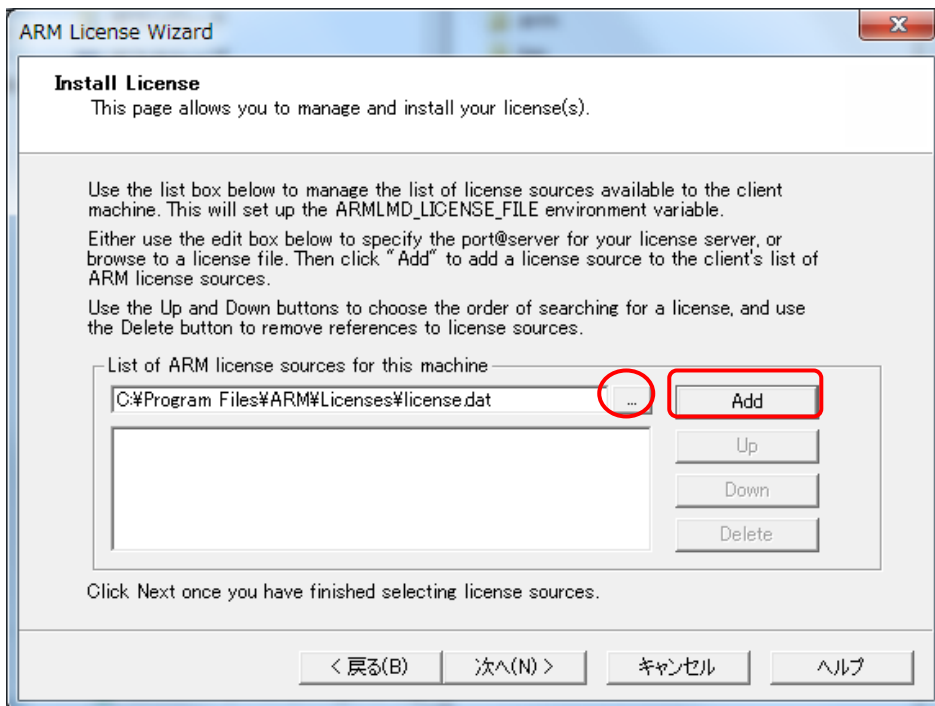


図 9-3-1. [Add License]ダイアログボックス

5. [完了]をクリックします。

手動によるライセンスのインストール (Windows のみ)

サポート対象の Windows 環境では、ARMLMD_LICENSE_FILE という環境変数を作成しライセンスファイルの場所を指定できます。

【手順】

1. **[スタート]**-> **[コントロールパネル]**をクリックしてコントロールパネルを開き、コントロールパネルの**[システム]**アイコンをダブルクリックします。このアイコンを簡単に見つけるには、コントロールパネルの表示をクラシック表示に切り替えます。
2. Windows 2000/XP の場合は**[詳細設定]タブ**、Windows Vista/7/10 の場合は**[システムの詳細設定]タスク**をクリックし、**[環境変数]**ボタンをクリックします。
3. システム環境変数の**[新規]**ボタンをクリックし **ARMLMD_LICENSE_FILE** を作成し、値を設定します。値には、前章(6章)で保存済みの**ライセンスファイルのパス**を指定します。

手動によるライセンスのインストール (Linux のみ)

次のいずれかの方法を使用して、Linux コンピュータ上で環境変数を作成できます。

【シェルコマンドを使用した手順】

- **csh** または **tcsh** を使用している場合、次のように入力すると環境変数を設定できます。
setenv ARMLMD_LICENSE_FILE ライセンスファイルのパス名
- **bash** または **sh** を使用している場合は、次のように入力します。
ARMLMD_LICENSE_FILE=ライセンスファイルのパス名
export ARMLMD_LICENSE_FILE

環境変数の設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

【.flexlmrc ファイルを使用した手順】

ホームディレクトリの **.flexlmrc ファイル**を編集して、環境変数を追加できます。次の行を追加してください。
ARMLMD_LICENSE_FILE=ライセンスファイルのパス名

10. ライセンスのホストマシン変更(リホスト)

お客様アカウントによって新規ライセンス取得された場合は、リホストもお客様ご自身で行っていただけます。

- ※ お客様のアカウントにより取得されたライセンスは、当社ではリホストできませんので予めご了承ください。
- ※ Arm Web システム上でライセンスのリホストを行う場合、サイトへのアクセスには対象ライセンスを取得した際と同一のアカウントによるログインが必要です。

以下手順に従い、リホストを行います：

1. お客様アカウントにより、以下サイトへアクセスしてください。
<https://developer.arm.com/support/licensing/rehost>
2. Rehost License Request(Disclaimer) 画面が表示されるので、[I Accept] ボタンをクリックしてください

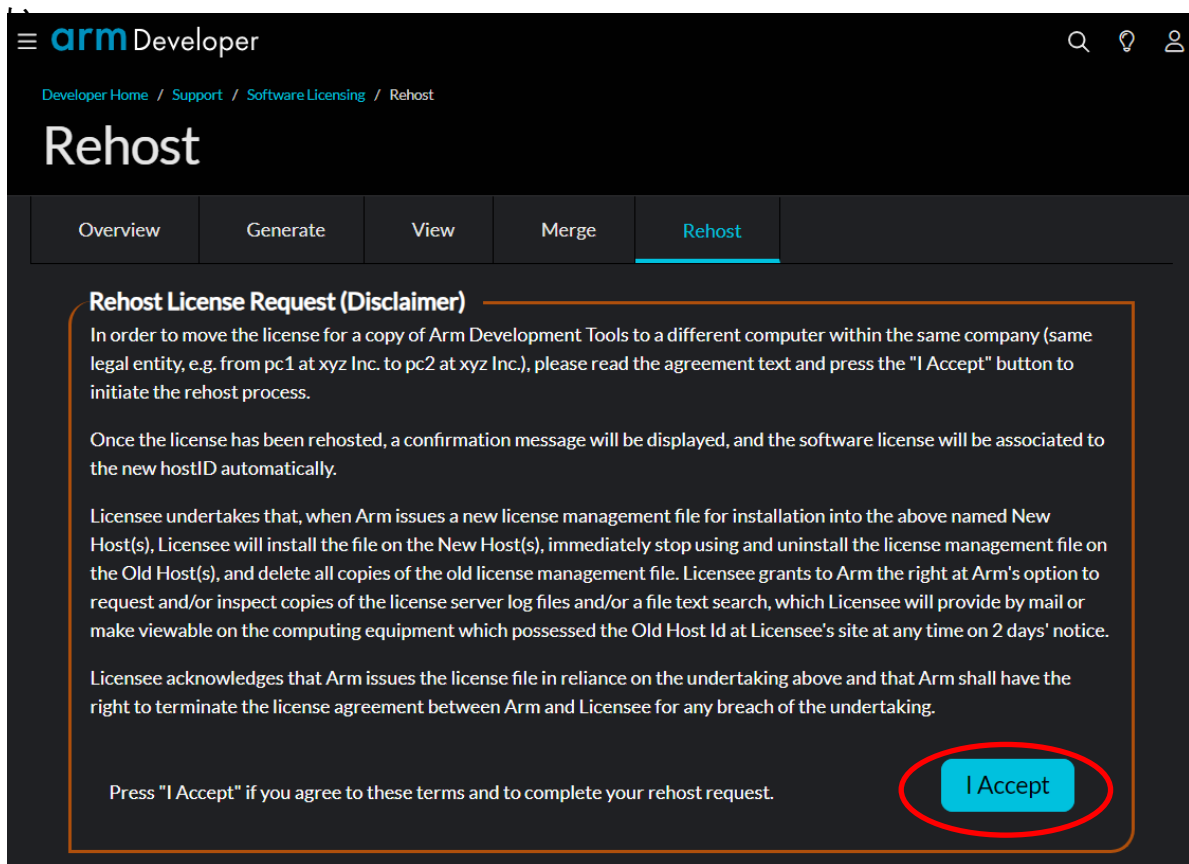


図 10. Rehost License Request (Disclaimer) 画面

3. Enter a Serial Number と表示されたフィールドへリホストしたいライセンスサーバの Serial Number 、もしくは Enter a Host Id と表示されたフィールドへリホストしたいライセンスサーバの Hostid を入力し [Search] ボタンをクリックしてください。
※ Hostid を入力される場合は、リホスト元となるサーバの Hostid を入力してください。

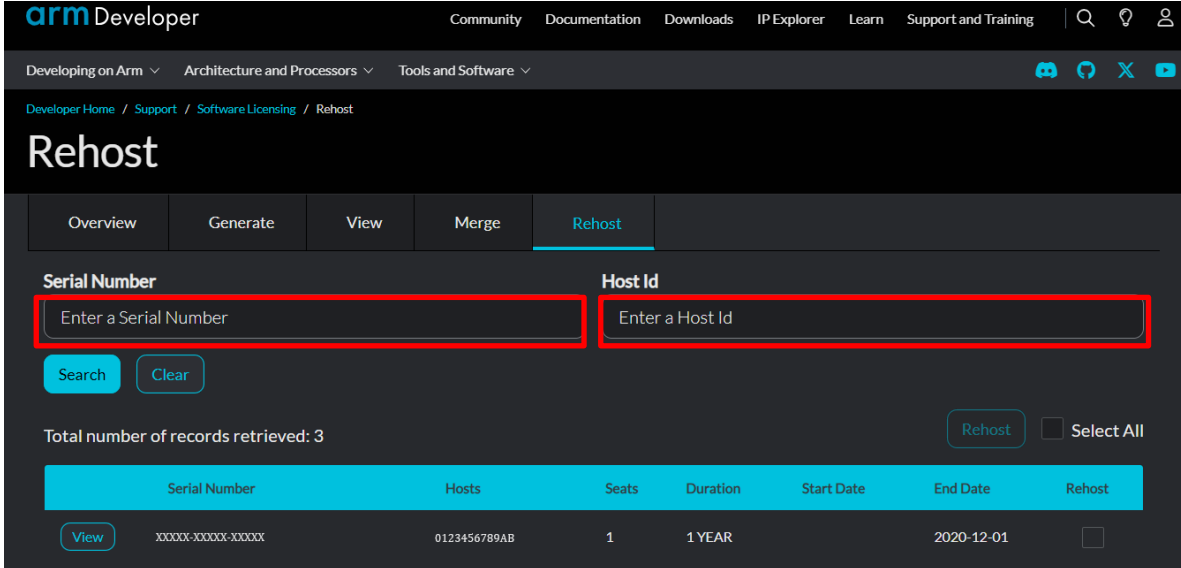


図 11. Serial Number もしくは Hostid 入力

4. 表示されたシリアル番号のうち、リホストしたいものの右端にあるチェックボックスにチェックを入れ、 [Rehost] ボタンをクリックしてください。

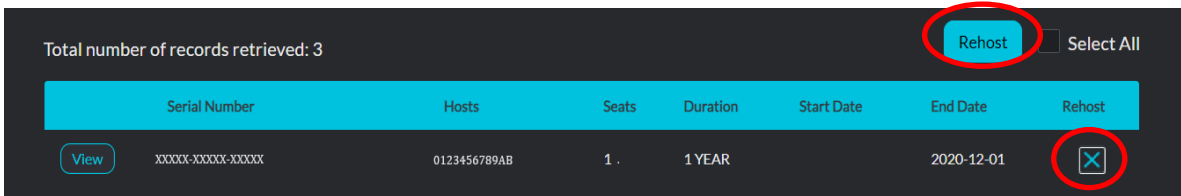


図 12. リホストしたいライセンスをチェック

5. Enter your reason for rehosting と書かれたウィンドウが開きますので、最上部のドロップダウンリストに表示される項目から、理由を選択します。
続いて、左側のドロップダウンリストが [ETHER] になっていることを確認し、Enter a Host Id の欄にリホスト先となる新しい hostid を入力した後、 [Rehost] ボタンをクリックしてください。

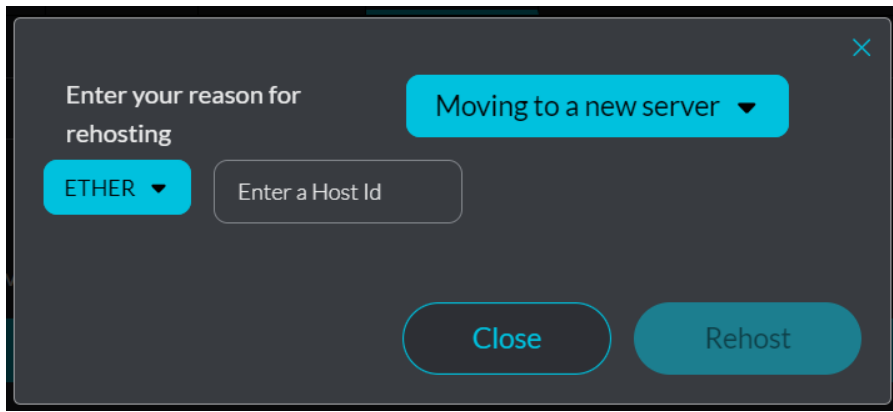


図 13. Enter your reason for rehosting ウィンドウ

右上のドロップダウンリストで選択可能なリホスト理由には以下があります。適切なものを選択してください。

- ・ Moving to a new server : ライセンスサーバの変更
- ・ Moving to a new workstation : ノードロックライセンス時のクライアント PC の変更
- ・ Mistyped the host identifier (s) : Hostid の誤入力
- ・ Other : それ以外

6. Your rehost request was automatically approved and processed. または
Your license has now been updated. You can find this here と表示されたらリホストは完了です。

<https://developer.arm.com/support/licensing/view>

等のメニューからリホスト済みのあたらしいライセンスファイルを手いいただけます。

※ ホストマシン変更(リホスト)に伴い、古いライセンスファイルは必ず破棄をお願い致します。

11.よくある質問 トラブルシューティング

この章では、ライセンスに関するよくあるご質問を記述します。

Arm Web サイトライセンスシステムへアクセスした際のエラー

【問題】

ライセンス管理(新規発行や Renewal)を行う場合に、該当するシリアル番号や Hostid を入力した際、下記いずれかのエラーメッセージが表示される場合があります。

- ・ Renewal 時 : “That serial number is registered to another account.”
- ・ View 時 : “No information matches criteria specified in search”
- ・ Marge 時 : “No Licenses found matching criteria specified”
- ・ Rehost 時 : “No Licenses found matching criteria entered”

【原因】

該当ライセンスを新規取得時に、現在ログインされた Arm Connect サービスのアカウント以外のアカウント(当社アカウントあるいは御社内の別アカウント)で取得された可能性があります。

【解決法】

以下 FAQ をご参照いただき必要事項をご連絡いただけますと、当社から Arm 社へ該当ライセンスの現 Arm アカウントから、お客様の新しい Arm アカウントへ変更を依頼いたします。

- ・ [登録済みの FlexIm ライセンスを管理するアカウントを変更する方法](https://customer-support.dts-insight.co.jp/hc/ja/articles/969698232052)
<https://customer-support.dts-insight.co.jp/hc/ja/articles/969698232052>

Arm 社によるアカウント変更が完了次第、当社からお客様へ再度ご連絡いたします。

その後、移行先の新しい Arm アカウントを使用して Arm Web サイトへログインし、再度お客様ご自身で該当ライセンスの管理操作を行ってください。

【問題】

新規ライセンス取得時、以下エラーメッセージが表示されます。

“**All seats have been used for this serial number. No more licenses may be created**”

【原因】

該当ライセンスはログインいただいた Arm アカウントによって、すでに取得済みの状態です。

【解決法】

ライセンスファイルを紛失するなどして該当ライセンスのライセンスファイルを再度入手したい場合、以下サイトへアクセスしてください。

<https://developer.arm.com/support/licensing/view>

シリアル番号を入力し、[Search]ボタンをクリックすると、該当ライセンスが表示されます。

[+] -> [VIEW]ボタンをクリックすると、ライセンスファイルが画面に表示されます。

画面右上の[Save]ボタンをクリックして、ライセンスファイルを任意の場所へ保存してください。

Arm Web サイトへログイン時のエラー

【問題】

お客様のアカウントで Arm Web サイトへログインしようとしたが、以前登録しログインできたパスワードでログインすることができません。

【原因】

前回ログイン時から多くの時間が経過している場合以下のようなメッセージが表示され、再度 ID についての確認操作が必要とされるようになりました。

“We have changed the way you sign into ARM websites Existing customers must sign up again in order to reactivate your account”

【解決法】

「アカウントがない場合今すぐサインアップ」をクリックし、既登録済みのアカウント ID とパスワードを再度登録してお試しください。

Product Download Hub サイトでダウンロード時にエラー

【問題】

製品のダウンロード時に、以下のようなエラーが発生するなどしてツールのダウンロードに失敗する

Something has gone wrong we could not retrieve the data

Try again later or contact support {Err.1400}

【原因】

Arm の web サイトの更新の影響を受けている可能性があります。

【解決法】

以下、当社の FAQ をご参照ください

[Product Download Hub アクセスエラーのトラブルシューティング](#)

ビルド時のトラブルシューティング

以下のようなケースについては、当社の FAQ をご参照ください:

- ・ [最新バージョンの DS-5 をインストールしたら、ライセンスエラーが発生した](#)
- ・ [期限付きライセンスをインストールしましたが、「FLEXlm error: -88 "system clock has been set back."」というエラーが出ます](#)
- ・ [ライセンスファイルのマージ後、ライセンス数分の RVDS が起動できなくなりました](#)

さらにその他、表示されているエラーメッセージやエラーコードから原因を特定するために、以下 FAQ も合わせてご確認ください:

- ・ [Flexlm ノードロック ライセンスに関連する問題のトラブルシューティング](#)

12. 当社サポート対応

当社では E-mail による技術サポートをご提供いたします。お問い合わせの際は迅速な対応を目的とするため、下記の必須情報を必ずご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. お客様氏名
 2. 会社名および部署名：
 3. お電話番号：
 4. 対象製品名およびバージョン：
 5. 対象製品シリアルナンバー：
- サポート申し込み時の必要情報等についての詳細は以下 FAQ をご参照ください
- ・ [Arm 製品の技術的なお問い合わせの際の必要事項について](#)
- サポート対応時間帯：平日（月～金：祝祭日および年末年始は除く弊社が定める営業日）
10:00～12:00 13:00～17:00 （メール、FAXの受付は24時間可能です。）
- ◆ 株式会社 DTS インサイト：
<https://www.dts-insight.co.jp/>
- ◆ ライセンス要求、技術的なお問い合わせ（修理含む）：
E-mail: arm_support@dts-insight.co.jp
- ◆ 保守に関するお問い合わせ：
E-mail: arm_sm@dts-insight.co.jp
- ◆ トレーニング（技術セミナー）に関するお問い合わせ：
E-mail: arm_training@dts-insight.co.jp